

日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第20回）
議事要旨

- 【日 時】 平成23年4月25日（月）9：30 - 12：30、12：30 - 16：30
【場 所】 日本学術会議 5-C(1)(2)会議室
【出席者】 岩澤委員長、海部幹事、浅島委員、五條堀委員、平委員、永宮委員、小林委員、山本(正)委員、矢川委員
事務局：石原参事官、中島上席調査官 他
【欠席者】 山本(真)副委員長、長野幹事、大垣委員、山岸委員、
【説明者】 岩井克人、廣川信隆、家 泰弘、西尾 章治郎、久保田 弘敏、
柴田徳思、井上孝太郎、相原博昭、田村裕和、兒玉了祐

【議 題】

- 1) 前回議事要旨（案）の確認
- 2) 社会科学、生命科学、物質・分析科学、物理科学・工学、情報インフラストラクチャー分野ヒアリングについて
- 3) 今後の進め方について
- 4) その他

【資 料】

- 資料1 前回議事要旨（案）
資料2 今後の進め方（案）
資料3 岩井先生説明資料
資料4 西尾先生説明資料
資料5 久保田先生説明資料
資料6 柴田先生説明資料
資料7 井上先生説明資料
資料8 廣川先生説明資料
資料9 相原先生説明資料
資料10 田村先生説明資料
資料11 家先生説明資料
資料12 兒玉先生説明資料

参考1 委員名簿

参考2 第3回調査結果一覧表

参考3 第3回調査結果（社会科学、生命科学、物質・分析科学、物理科学・工学、情報インフラストラクチャー分野抜粋）

議事

1) 前回議事要旨

原案通り承認された。

2) 大型計画ヒアリング

ヒアリングに先立ち、ヒアリングと関連資料は非公開とする旨が了承された。

ついで社会科学分野、情報学分野、エネルギー・環境・地球科学分野、生命科学分野、理学・工学分野、物質・分析科学分野のマスタープラン既定計画、および今回の小改訂に向けた新規提案の中から、以下 10 人の参考人の方々に説明を頂き、各説明者ごとに質疑応答を行った。なお計画の番号は、配布の〈参考 2〉による。【43】— は既定マスタープランの 43 計画一覧表、【新】— は新規計画一覧表の番号である。

・岩井克人 東京大学名誉教授・経済学委員会委員長 【社会科学分野】

【新】1 を社会科学分野からの統一提案として説明。併せて小林委員からも、今回は第一部に大型計画分科会を設置し、検討を経てきたことなどが報告された。

・西尾章治郎 大阪大学副学長 【情報インフラストラクチャー分野】

情報学委員会での検討を経て、分野名を「情報インフラストラクチャー」から「情報学」に変えたい旨が提案された。具体計画では【43】43 は検討のため今回は辞退、【43】42 は最先端基盤事業で 30 億円が付いたことを受けて改訂継続、かつ【新】104、105、106 をこの順で推薦したい旨が説明された。質疑応答により、以下の 2 点を確認した。①災害における情報の在り方なども考慮すべきとの意見を現在の案の中に織り込むことを検討、②ユーザーと開発・制作側一体の計画推進のため、ユーザーサイドとの協議を進め、今後【43】32 との連携・統合も視野に入れる。

・久保田弘 帝京大学教授 【物理科学・工学分野】

宇宙工学関連の【新】89 を説明。

・柴田徳思 J-Park センター客員研究員 及び 井上孝太郎 JST 上級フェロー

【エネルギー・環境・地球科学分野、物理化学・工学分野】

エネルギー関連の【43】16 は、開発状況や別途予算も考慮して今回は辞退。【43】36 は福島原発事故などを受けて修正はしつつ継続。【43】15、【43】18 は継続。【新】42、50、51、54、67、69、70、95、97 がそれぞれ説明されたが、今回の小改訂ではマスタープランへの追加は考えない。

・廣川信隆 東京大学教授 【生命科学分野】

脳科学に関する【新】5、14、32、39 を、すべて【新】39 に統合する形で説明。各代表者による調整・了解済みと報告されたが、質疑では、意図は意欲的だが他の計画との統合整理は必ずしも十分ではないのではないかなどの意見があった。

・相原博昭 東京大学教授 【物理科学・工学分野】

素粒子・宇宙線に関わる【43】27、28、29、30、32 について説明、それぞれ継続。

【43】32については、情報分野を参照。【新】83、84、86が説明されたが、コミュニティでの本格的検討が始まったばかりである。質疑応答では、最先端基盤事業100億円とその他も加え総予算の半分程度のめどがついた【43】27をマスタープランに残すかどうかは、分科会での議論にまかせたい旨の表明があった。また、震災被害のあった【43】28の今後について質問があった。

・ 田村裕和 東北大学教授 【物理化学・工学分野】

原子核科学に関する【43】28は継続、原子核物理分野として最優先。【43】31はタイトルを変更して継続。【新】90、94、96を説明。

・ 家 泰弘 東京大学教授 【物質・分析科学分野】

【43】23は最先端基盤事業48億円が付いたが、なお最優先の中性子ビームがあり修正して継続。タイトルの「パルス」は削除する。【43】24は継続。【43】25は最先端基盤事業で15億付いたが、修正して継続。【43】26はタイトルを変更し【新】68を加え、修正して継続。【新】65、66を説明。基本は既存4計画である。

・ 兒玉了裕 大阪大学教授 【物理化学・工学分野】

【43】37（継続）および【新】78を説明。【43】18を加えた「レーザーの3点セット」の重要性を強調。

3) ヒアリングのまとめ

今日のヒアリングについて、短いまとめの議論を行った。ヒアリング未実施の地球科学分野以外は、かなり見えてきた。これまでの議論とも併せ、現状までを海部が整理して全員に送付する（以下に添付）。なお脳科学はこれまでの生命科学のヒアリングと合わせ、生命科学分野の委員（長野委員、浅島委員、五條堀委員、山本（正幸）委員）が合議・整理の上で、本分科会に改めて提案し、全委員による検討を行う。

4) 今後の進め方について

次回（5月30日9時半～16時半）は、地球惑星科学及び物理科学・工学の残りについてヒアリングを行う。マスタープランの2ページ説明文はかなり改定が必要であり、確定して依頼できるものから依頼を始める。6月13日、6月15日に改定案を審議し、6月22日に改訂版の一覧表を決定する。7月11日の臨時総会で中間報告。報告書は遅くも9月末までに作成し、10月総会で改訂版の最終報告を行う。

（以上）